

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-325342

(43) 公開日 平成11年(1999)11月26日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

F 1 6 L 19/08

識別記号

F I

F 1 6 L 19/08

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平10-133730

(22) 出願日 平成10年(1998) 5月15日

(71) 出願人 594165734

イハラサイエンス株式会社

東京都品川区大井4丁目13番17号

(72) 発明者 長瀬 祐助

東京都品川区大井4丁目13番17号 イハラ  
サイエンス株式会社内

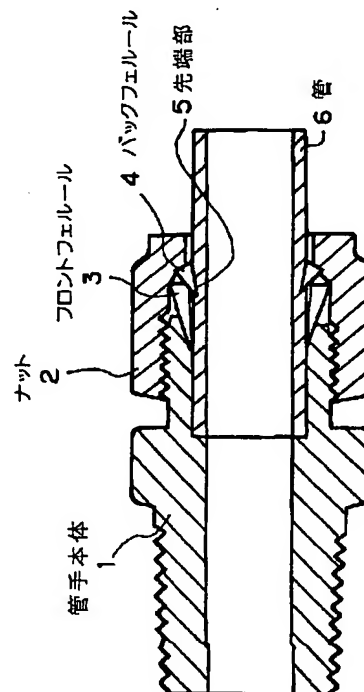
(74) 代理人 弁理士 若林 忠 (外4名)

(54) 【発明の名称】 管継手

(57) 【要約】

【課題】 継手本体にねじ込まれて管を接続するナットを適正トルクで締め込み可能とすると共に、ナット内面に錆が発生しないようにした管継手を提供する。

【解決手段】 管継手本体1にねじ込まれて管6を接続するナット2の内面に、フッ素系樹脂のコーティングを施す。これによりナット2を適正トルクで締め付けることができると共に、ナット2の内面の錆の発生を防止することができる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 継手本体(1)にねじ込まれて管(6)を接続するナット(2)の内面に、フッ素系樹脂のコーティングが施されていることを特徴とする管継手。

【請求項2】 ステンレス製のダブルフェルール型管継手であることを特徴とする請求項1記載の管継手。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ダブルフェルール型管継手等の管継手に関するものである。

【0002】

【従来の技術】通常、ダブルフェルール型管継手は、継手本体、ナット、フロントフェルールおよびバックフェルールにより構成されている。この管継手の材質にはステンレスが使用され、そのナット内面には、継手本体に適正トルクで締め込みが可能のように銀メッキが施されていることが多い。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の管継手の場合、ナット内面に施されている銀メッキに錆が発生する場合があり、この管継手を、例えば半導体製造装置の配管などに使用していると、半導体が汚染されるという問題が発生する。

【0004】本発明は、上記問題点を鑑みてなされたものであって、継手本体にねじ込まれて管を接続するナットを適正トルクで締め付けることができると共に、ナット内面に錆が発生しないようにした管継手を提供することを課題とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は、上述した課題を次のようにして解決した。すなわち、管継手本体にねじ込まれて管を接続するナットの内面に、フッ素系樹脂のコーティングを施す。これによりナットを適正トルクで締め付けることができると共に、ナット内面の錆の発生を防止することができる。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明の実施の形態を実施例と共に図面を参照して説明する。

【0007】図1はダブルフェルール型の管継手の軸方向の断面図である。

【0008】図1において、ダブルフェルール型の管継手は、継手本体1、ナット2、フロントフェルール3およびバックフェルール4の4部品で構成されている。

【0009】継手本体1に管6を挿入し、ナット2を継手本体1にねじ込むことにより、継手本体1とナット2間の2つのフェルール3、4のうち、フロントフェルール3が継手本体1のテーパ面に沿って絞られ、湾曲もしくはローリングして先端が管6に圧着する。そしてバックフェルール4はフロントフェルール3のテーパ面に沿ってローリングして、その先端部5が管6に食い込み、管6と管継手の接続および内部流体の密封が行なわれる。

【0010】この管継手の各部品の材質は全てステンレスが使用され、ナット2の内面にはフッ素系樹脂のコーティングが施されている。

【0011】ナット2の内面にフッ素系樹脂のコーティングを施すことにより、ナットを適正トルクで締め付けることができると共に、ナット内面の錆の発生を防止することができる。また、フッ素系樹脂のコーティングには、複数の色の選択が可能であるので、配管の種類に応じて色を変えることができる。

【0012】上記実施例では、ダブルフェルール型の管継手について説明したが、その他の管継手のナットの内面にフッ素系樹脂のコーティングを施しても同様な効果を得ることができる。

【0013】

【発明の効果】本発明による管継手によれば、ナットの締め付けトルクの低減に有効であり無潤滑で適正トルクにて締め付けができると共に、ナット内面の錆の発生を防止することができる。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明によるダブルフェルール型管継手の軸方向の断面図である。

## 【符号の説明】

- 1 継手本体
- 2 ナット
- 3 フロントフェルール
- 4 バックフェルール
- 5 先端部
- 6 管

【図1】

